

コメント

1 インフルエンザ

定点当たり0.50人の報告がありました。手洗いの励行、咳エチケット、換気など、感染予防対策を心がけましょう。

2 腸管出血性大腸菌感染症

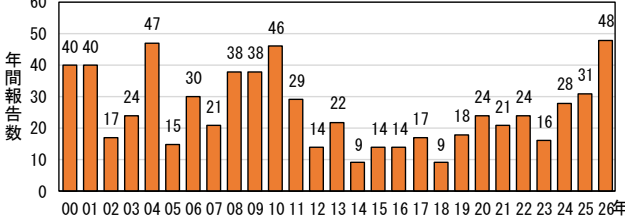
今年の累計は48件と、2000年以降最多の報告があった2004年の年間報告数47件を上回りました。感染予防のため、加熱が必要な食品は十分に加熱し、生野菜は十分に洗いましょう。また、調理の前、食事の前、トイレの後などは、せっけんと流水で手を洗いましょう。

3 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、日本紅斑熱

それぞれ1件の報告がありました。(次ページ参照)

腸管出血性大腸菌感染症の年間報告数の推移(広島市)

2026年第34週現在



定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	1176	34.59			小児科	突発性発しん	7	0.33	0.23	
	インフルエンザ	17	0.50	0.32			ヘルパンギーナ	10	0.48	0.69	
	新型コロナウイルス(COVID-19)	9	0.26				流行性耳下腺炎	-	-	0.03	
小児科	RSウイルス感染症	4	0.19	1.13		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	8	0.38	0.18			流行性角結膜炎	4	0.50	0.45	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	0.76	0.91		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	82	3.90	2.63			無菌性髄膜炎	-	-	0.07	
	水痘	3	0.14	0.16			マイコプラズマ肺炎	1	0.17	1.04	
	手足口病	28	1.33	1.59			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.65			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減 ↑ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↘ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇐ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	34
小児科定点数	21
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

前週(第33週)は、お盆の休診により、報告数が影響を受けている可能性があり、今週(第34週)と適正な比較ができないことから、発生記号は表示していません。

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	86	20歳代・推定感染地域: 国外、60歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	5	48	10歳代・O157・2人、30歳代・O115・1人、30歳代・O157・1人、40歳代・O157・1人
4	E型肝炎	1	2	30歳代
4	重症熱性血小板減少症候群	1	2	70歳代
4	日本紅斑熱	1	2	70歳代
5	急性脳炎	1	7	10歳未満
5	後天性免疫不全症候群	2	5	20歳代・エイズ・推定感染地域: 国外、30歳代・エイズ
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	15	60歳代
5	梅毒	5	82	20歳代・2人、40歳代・1人、50歳代・1人、60歳代・1人
5	百日咳	1	28	10歳未満

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	(COVID-19) 新型コロナウイルス 感染症	RSウイルス 咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス) 感染性胃腸炎	
報告数	広島市	第30週	1,534	3	32	12	9	27	62	6	67	-	7	21	-	-	2	-	-	6	-	1
		第31週	1,638	8	16	6	6	35	78	4	71	-	5	19	1	-	2	-	-	-	-	-
		第32週	1,376	16	18	13	9	30	79	7	53	-	6	20	1	-	1	-	-	3	-	-
		第33週	651	13	13	15	3	15	34	3	15	1	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-
		第34週	1,176	17	9	4	8	16	82	3	28	-	7	10	-	-	4	-	-	1	-	-
定点 当たり	広島市	第30週	45.12	0.09	0.94	0.57	0.43	1.29	2.95	0.29	3.19	-	0.33	1.00	-	-	0.25	-	-	1.00	-	0.17
		第31週	48.18	0.24	0.47	0.29	0.29	1.67	3.71	0.19	3.38	-	0.24	0.90	0.05	-	0.25	-	-	-	-	-
		第32週	41.70	0.48	0.55	0.65	0.45	1.50	3.95	0.35	2.65	-	0.30	1.00	0.05	-	0.13	-	-	0.50	-	-
		第33週	22.45	0.45	0.45	0.88	0.18	0.88	2.00	0.18	0.88	0.06	-	-	-	-	-	-	0.17	1.00	-	-
	全国	第34週	34.59	0.50	0.26	0.19	0.38	0.76	3.90	0.14	1.33	-	0.33	0.48	-	-	0.50	-	-	0.17	-	-
第32週		44.17	0.52	1.79	0.65	0.27	1.31	3.48	0.25	4.70	0.04	0.29	1.33	0.03	-	0.50	0.01	0.05	0.40	0.01	-	
		第33週	29.80	0.69	1.12	0.51	0.18	0.82	2.11	0.18	2.40	0.02	0.19	0.69	0.03	0.01	0.35	0.02	0.05	0.45	0.02	0.02

■ 新たに判明した病原体検出状況 感染症発生動向調査に基づく病原体定点医療機関からの搬入分(ARI分を除く)のみ掲載

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	咽頭炎	4	2026/06/28	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌TB3264型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0℃) 上気道炎 熱性痙攣	8	2026/07/03	鼻汁(拭い液)	パラインフルエンザウイルス1型

(検査: 広島市衛生研究所)

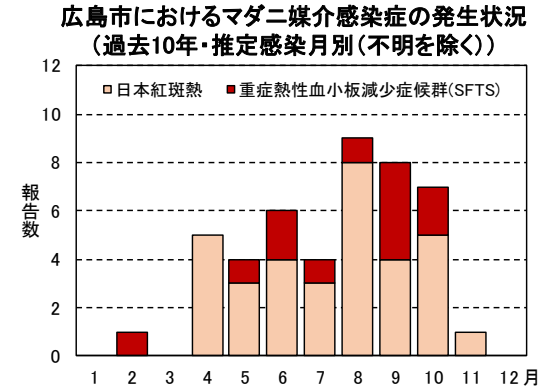
■ 病原体検出状況(ARIサーベイランス) 感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	インフルエンザウイルス A H3N2 A H1N1pdm09	インフルエンザウイルス A H3	B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統)	B型インフルエンザウイルス (山形系統)	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニューモ ウイルス	パラインフルエンザ ウイルス1型	パラインフルエンザ ウイルス2型	パラインフルエンザ ウイルス3型	パラインフルエンザ ウイルス4型	ライノウイルス	エンテロウイルス	アデノウイルス
第29週	13	11					1			2	2		1		7	1	1
第30週	16	14					2		2	2	3		1		3	1	2
第31週	15	9	1				1				3		2		1		1
第32週	11	5					1			1			2		1		
第33週	5	5						1	1		1		1		2	1	1

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む (検査: 広島市衛生研究所)

詳しくはホームページで [広島市 病原体](#) 

【参考】マダニが媒介する感染症に注意しましょう！



マダニが媒介する感染症には、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群(SFTS)があり、病原体を保有するマダニに刺されると感染することがあります。主にマダニの活動が盛んな春から秋にかけて報告があります。

予防のため、山や草むらに入るときは、長袖・長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくし、マダニの付着を防ぎましょう。また、野生動物との接触を避け、ペットのマダニ対策を心がけましょう。



【参考】マダニ対策、今できること(国立健康危機管理研究機構)
<https://id-info.jih.go.jp/infectious-diseases/tick-borne-diseases/tick-prevention/index.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/eisei/1003071/index.html>

【問い合わせ先】
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp